

令和4年度 学校関係者評価書

鈴鹿市立千代崎中学校		NO.	
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	<p>学力向上に向けた授業改善の取組を継承しながら、よりよい授業づくりのための教員のスキル向上に資する研修を推進する。</p> <p>※「この学校では、授業の工夫・改善を組織的にやっている。」95%以上</p> <p>※「学校の先生は自分達に分かりやすく授業を工夫してくれる。」95%以上</p> <p>※「授業の中で、生徒が学習課題に意欲的に取り組めるよう指導の工夫を行っている。」95%以上</p> <p>※「わたしは授業の中で生徒が本時で何を学習したか、何をできるようにしたか確認できるような振り返りを設定している」100%</p> <p>※「自分から進んで勉強に取り組んでいる。」75%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が進んで勉強し取り組めていないと感じる割合が比較的高い数値となっていることから、教師の授業に対する姿勢と比して自戒的な思いがあると思われる。また、他に要因のある生徒に対して、全教職員で対応できる体制を確立されたい。 ・どの調査結果の数値も高く素晴らしい。 ・授業の工夫、改善等に努めていただいているが、全国学力・学習状況調査においては全国平均を下回っている。家庭生活も含め、幼保小中連携を図りながら、学力向上を図られたい。 ・生徒自身が、自分と向き合う機会が増えているように感じる。将来のために、どのような学習が必要なかな等を明確にさせることで、より学習意欲の向上につながると考えられる。 ・主体的に学習に取り組めない生徒への支援等をどのように講じていくべきか。 ・生徒を認めていくことや激励により、生徒は自発的に学習に取り組んでいくのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性を促すための授業計画を行うとともに、更に学びたいと思えるような手立てを講じる。 ・家庭学習の習慣化を図るため、学校での既習事項を用いて、家庭での学習につなげられるような課題を設定する。その際、ICTを活用する等、家庭との連携強化に努める。 ・生徒の抱える悩みや生活態度だけでなく、学力面における強み、弱みを小中連絡会で確認することにより、習得させたい力を明確にする。 ・小中連携を図りながら、校区内小中学校でスクリーンタイム削減に係る取組を行う。
ICTの活用	<p>GIGAスクール構想の趣旨に基づき、多様な生徒のニーズに応えられるよう、全教職員がICT機器を利活用できるように努める。また、教職員のICT活用技能の向上に資する研修会を開催し、教職員の利用頻度を高める。</p> <p>※ICTに係る研修 年3回実施</p> <p>※授業におけるICT機器の利用率 80%</p> <p>生徒が個別に最適な学びを進めるとともに、学級内で意見交換等、協働的な学びができるよう、端末利用を促進する。</p> <p>※「調べ学習における利用状況」において「週3回以上」と生徒割合 70%</p> <p>※「意見交換における利用状況」において「週3回以上」と生徒割合 50%</p> <p>※「発表における利用状況」において「週3回以上」と生徒割合 50%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全てICTに置き換えられるものではないため、週3回程度の活用でよいのではないかと。翻訳機能等、多様な生徒のニーズに応えられるようになってきているのか。 ・今後の社会においてICTは、必要不可欠なものであり、基礎を固める段階であり、そのことがしっかりと達成されている。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、適切に活用していただいている。 ・不登校傾向にある生徒にとっては欠かせないものである。 ・教職員が積極的な活用に取り組んでいることから、生徒も安心して活用することができていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な学びのためのツールとして活用するだけでなく、端末活用を通して、協働的な学びの実現に向けた取組を推進し、生徒の学力保障を行う。 ・今後も、不登校生徒や感染症により欠席する生徒のニーズに応じて適切に活用していく。 ・教職員の活用能力及び技術力向上のため、ICT教育支援員による研修等を定期的に開催する。
不登校	<p>生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びの場で、生徒が自立する力及び主体的に社会参画できる力を身に付けさせる。</p> <p>※すずかっ子支援ファイル有する生徒で、好ましい変化があったと判断できる生徒の割合74%→80%</p> <p>不登校になった児童生徒に対するケアだけでなく、新たな不登校を生まないために、欠席生徒への早期対応に努め、保護者が「学校とつながっている」と感じてもらえる取組を積極的に行う。</p> <p>※30日以上欠席35名→30名以下 100日以上の子 8人以下担任による教育相談を毎学期行い、専門的なカウンセリングが必要と思われる生徒にはSCの活用を進める。また、必要に応じて医療機関・福祉機関等の専門機関との連携を図る。</p> <p>※好ましい変化があったと感じる生徒の割合78%→85%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民として最も憂慮される案件であり、地域で支える取組を推進していきたい。また、教職員が生徒と深く関わることができるよう、他の業務を地域に割り振ってはどうか。 ・地域住民としてできる方策があれば提示いただきたい。 ・不登校の事由が多様化しているため、保護者との面談等を丁寧に行っていたいただきたい。 ・担任の先生の対応やカウンセリング等は重要であるため、様々な取組を行っていただいていることを評価したい。今後も学校という居場所、家庭という居場所を確保できるよう、努めていきたい。 ・今後も先生方の早期対応や途切れのない見守り体制をお願いします。 ・一人たりとも不登校を出さないことを望む。地域の有識者を巻き込んだ取組も一考と思われる。 ・新型コロナウイルス感染症により、生徒は精神的に繊細な環境となっている。こうした中、様々な生徒に対応していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して、生徒及び保護者の要望に寄り添いながら、安全・安心な学校づくりを行って行く。 ・工作や手芸教室等を開催するなど、ボランティアの一環として、地域人材の活用を図りながら、別室登校する生徒への支援を多面的に行いたい。 ・長期化する不登校の困難事案について、専門家の意見や助言を求めると、計画的にケース会議を開催したり、定期的にスーパーバイズを受けたりする。
地域連携	<p>学校が抱える課題を解決できるよう、学校運営協議会等の意見を踏まえた学校運営に心がけるとともに、教育活動に地域コーディネーター等、様々な地域人材を活用するなど、地域と共にある学校づくりを行う。</p> <p>※学校運営協議会開催回数 全6回(前年度同数)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、これまでの行われてきた地域行事が縮小される傾向にあるものの、可能な範囲内で生徒が意欲的に参加できるようにする。</p> <p>※「地域行事に参加している」肯定的回答 全国平均以上</p> <p>※「地域や社会をよくするために何をすべきかをかんがえることがある」肯定的回答 全国平均以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の壮年や老年も学校と関わる工夫と努力が必要だと痛感しており、学校運営協議会で保護者の方々が発信する内容は大変貴重だと感じている。 ・今後も学校運営協議会の開催を継続していただきたい。学校と保護者等が意見交換できる良い機会である。また、地域連携の必要性を広く周知していきたい。 ・学校と地域の連携については、相互理解によって積極的になされていくと実感するが、もう少し保護者一人ひとりが積極的になっていただきたい。 ・不登校生徒対応等、教育課題に対する学校運営協議会委員の具体的な活動の場がない。 ・今後の取組につなげていけるような、活発な意見交換の場が持てることを期待したい。 ・協議だけでなくとどまらず、授業見学等、生徒の実態が把握できるような学校運営協議会を展開されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、小学校と異なりボランティア等に参加しにくいといった意見もあったことから、誰でも気軽に来校できるような地域参加型の学校行事等を検討する。 ・部活動指導員や専門的知識を有する地域住民を講師として招聘する等、地域人材を活用したい。 ・学校運営協議会では、学校主導となることが多かったため、地域主体の協議会となるよう、在り方の見直しを図りたい。
人権教育	<p>仲間の頑張り等を認める力及び自分の努力や良さを認知する姿勢を培う。</p> <p>※「自分には、よいところがあると思う」72.8%→80%</p> <p>いじめや差別等、他者の人権を侵すような行動は絶対に許さないという姿勢を育てるとともに、困り感を抱える生徒が相談できる体制を整備する。</p> <p>※「困ったことがあれば学校の先生に相談できる」75.5%→80%</p> <p>相互に認め合う取組を推進することが必要となることから、学級・学年・学校全体が安心できる居場所となるよう、思いやりの言動等により他者を大切にすることを育む。</p> <p>※「授業では自分の考えや疑問を発言しやすい雰囲気がつくられている」77.8%→82%</p> <p>※「クラスのなかまは、わたしのよいところやがんばりを認めてくれる」</p> <p>前年度の数値88%維持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が相互に認め合うことも大切であるが、生徒は先生に認めてもらうことが何よりも嬉しいと感じるはずである。また、困難な問題や危機的な状況等に遭遇した際に、立ち直ることができるような順応力の育成を図られたい。 ・各家庭でもいじめについて教育してほしい。学校側は常にいじめの根絶に向けて取り組んでほしい。 ・自分は自分のままでよい、変わる必要はないと認識してほしい。また、自分を大切にするとともに、他者を大切にできる関係性を強めてほしい。 ・外部講師等を招聘し、情操教育に取り組んでほしい。 ・人権教育は、小学校の頃からとても充実していると感じている。人を思いやる気持ちが育成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権フォーラムで協議した内容を各校に持ち帰り、いじめ根絶に向けて児童生徒に対して還元することができたが、保護者も共に考える機会を設定したい。そのため、保護者が人権教育に係る授業を参観したり、通信等で生徒の現状を発信したりする等、周知を図りたい。 ・今後も生徒の実情に応じた課題を設定し、専門的知見を有する外部講師を招聘する。 ・今後も小中連携を図りながら、校区の人権課題を踏まえた人権教育を推進していく。